

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2714 号

Evaluation of the efficacy and safety of a new flex-rigid pleuroscope

新規フレキシブル胸腔鏡ファイバーの有用性と安全性の評価

石井 聡 (いしい さとる)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、局所麻酔下胸腔鏡に対して新規フレキシブル胸腔鏡ファイバーの有用性と安全性を初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。局所麻酔下胸腔鏡検査は原因不明胸水に対して行い、内科医も施行することができる。局所麻酔で行い、1 ポートにて手技を行う。悪性胸膜中皮腫・結核性胸膜炎・癌性胸膜炎などの診断に有用である。従来の胸腔鏡ファイバーは湾曲角が 130 度であったが 180 度に改良し、画像解像度を改良するとともにファイバーの内腔を 2.8mm から 3.0mm に改良した。33 例に対して後方視的に検討を行った。32 例 (97%) はイントロデューサー挿入部位の観察も可能であり死角が少なくなっている。18 例の悪性疾患 (肺癌胸膜転移 10 例・悪性胸膜中皮腫 4 例・悪性リンパ腫 3 例・多型癌胸膜転移 1 例)・15 例良性疾患 (膿胸 5 例・非特異的胸膜炎 4 例・結核性胸膜炎 3 例・アスベスト関連胸膜炎 2 例・IgG4 関連胸膜炎 1 例) が診断に至り、診断率は 100% であった。今回の検討では症例数も少ないが、過去の文献での診断率は 79%~96% と報告されており従来の胸腔鏡ファイバーより診断率が高くなっている可能性が高い。合併症は 6.1% であり重篤な合併症は認めず、軽微な合併症は疼痛 1 件を認めたが静脈麻酔の追加で改善した。また出血 1 件も認めたが自然に止血を確認した。当論文などの報告をもとに 2021 年 7 月に新規フレキシブル胸腔鏡ファイバーは LTF-H290 として発売され、現在多くの施設で使用されている。今回の発表の臨床的意義は大きい。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。